

第3回橋本市の自治と協働をはぐくむ委員会 会議録

会議名	第3回橋本市の自治と協働をはぐくむ委員会会議
日時	令和5年11月6日(月) 13時30分~16時00分
場所	橋本市教育文化会館3階第3研修室
出席者 (敬称略)	堀内 秀雄 前田 陽一郎 田村 亜美 井西 三知子 玉井 勝代 佐藤 陽子 今田 実 岩澤 晃臣 岸田 昌章 芝 一與 戸島 浩子 中谷 維志 東 美樹 平田 敬二 向 律子 【出席委員：15名】
欠席者 (敬称略)	乾 幸八 平家 利也 森田 知世子 小原 秀紀 福澤 稔 【欠席委員：5名】
事務局	総合政策部長 土井 加奈子 地域振興室長補佐 前川 朋久 地域振興係主査 上原 慎太郎
次第	1. 開会 2. 報告確認事項 ① すこやか橋本まなびの日 資料1 ブース出展内容 資料2 展示パネル(案) 3. 議事 ① 自治と協働の職員研修 資料3 実施要項(案) ② 自治と協働の実践団体 資料4 自治と協働の実践団体 4. その他 5. 閉会

1. 開会

- 委員 20 名中 15 名出席により、委員会が成立していることを報告。
- 議事録署名人は田村亜美委員、芝一與委員。

2. 報告確認事項

- ① すこやか橋本まなびの日
令和5年11月12日(日)のすこやか橋本まなびの日にブース出展するにあたり、当日の出展内容及び前日の準備について、確認を行った。
- 報告内容
 - ブース内ボランティアを募集したところ、3名の申し込みがあった。申込者内訳はサポーター登録者、第2期委員、第3期委員友人。
 - 今年度は委員提案によって、はぐくむの木を子どもと大人に分ける。大人は従来通り、紙に描いた木の幹に実を貼り付けるが、子どもは実をオーナメントに貼り付け、クリスマスツリーに飾り付けをする。
 - 展示パネルは委員提案と昨年度反省を活かし、内容を変更した。
- まとめ
 - 前日準備は13時に委員会ブースに集合。作業は1時間程度。
 - 当日は9時に委員会ブースに集合。
 - 内容について、委員の了解を得た。

3. 議事

- ① 自治と協働の職員研修
令和5年11月20日(月)に実施する職員研修について、職員研修検討会議戸島委員から実施要項(案)に沿って説明し、補足説明を事務局から行った。
- 内容説明
 - 研修のメインはワークショップ。テーマは「自治と協働をどう進めていけばよいか」。1グループ6～8名(うち1, 2名が委員)、7, 8グループで実施予定。
 - 昨年度、各職場から1名参加だったところを2名に増員しているため、研修を午前と午後の2部制にしている。
 - グループ発表は動画撮影し、庁内で共有する。
 - 研修受講者には振り返りのアンケートを実施する。

- 研修後の11月中に「協働に関する職員アンケート」を実施する。
- グループワークの進め方など、現在決まっていない事項については、11月20日の自治と協働の職員研修開催までに職員研修検討会議を開催し決定する。
- 委員意見等
 - ワークショップのテーマは「自治と協働をどう進めていけばよいか」だが、変更の余地はあるのか。「進める」、「勧める」、「すすめる」で検討してもよいのでは。
 - 職員研修に市民が加わる自治体は本当に少ない。
 - 昨年度の成果の上に立って次のステップに行くように、研修を実施したい。去年と同じことを実施する必要はないが、去年のことを知ったうえで、ざっくばらんに話し合いができるように、事務局もフォローしてほしい。
 - この研修は継続することに価値がある。今年実施したものを来年につながるよう、内容等も検討していきたい。
 - 職員研修に参加するのは初めてで不安がある。進行役は委員が行うのか。
 - ファシリテーターは、グループ内で相談して決める。昨年度はほとんどのグループで職員がファシリテーターを行っていた。
 - 昨年度は、職員は行政の立場に縛られるのではなく、話をする中で市民の立場で意見を言ったりもしていた。今年もそのような話の展開になれば良いと思う。
- まとめ
 - 昨年度職員研修報告書を第3期新規委員に送付する。
 - ワークショップのテーマなど、研修内容の最終調整は職員研修検討会議に一任する。
- ② 自治と協働の実践団体
 - 資料に沿って、事務局から説明。
 - 説明内容
 - 地域振興室が所管する事業として、協働を実践する団体を設立する。
 - はぐくむ委員会からは東委員、森田委員が参加。
 - 「人と人が交流できる居場所」を作り、効果的に人材交流を行えるよう、令和6年度は「ボランティア人材の発掘と育成を行い、地域活動の活性化」を図る。
 - 委員意見等
 - 検討会に参加している方に気持ちよく参加いただくためにも、検討会の設置要綱を作成したほうが良い。
 - 運営組織の設立のために整理と具体化が必要。
 - 地域団体のすべての窓口を総括する課が必要では。
 - すべての窓口を総括するのは現実的ではない。まずは関係課などの横の連携強化を図っていく。

- 地域運営組織は設立後柔軟に形を変えながら前に進めるのが良いと思う。
 - 上手くいっているところは、そこに関わる人たちが集まって会話をしている。
 - 高齢者は地域の中で頼られ、力を発揮できる場をいただくことで、いきいきできる。そんな場を作ってもらえるのであれば大賛成。
- まとめ
- 地域の協働実践を掘り起こす、見える化するために協働実践団体を設立する。
 - 実践団体とはぐくむ委員会で情報共有をしっかりとやっていく。

4. その他

① 次回会議日程

- 第4回はぐくむ委員会は2月開催予定。
- SNS を用いて調整を行う。

② 委員提案

- 次回の委員会で、3つのグループ（情報共有、市民参画、協働のまちづくり）が今期どのように進めていくかを報告しては。
 - グループ内で今期の進め方や内容を検討し、次回報告することとした。

5. 閉会

以上

【会議録署名欄】

委員長

堀内秀雄

【会議録署名欄】

委員 田村 亜美

【会議録署名欄】

委員

芝 一 真
